

京都コースからの7がみ



2024年5月発行

第86号

〒607-8218 京都市山科区勤修寺御所内町64-3

深草こどもの家 勤修寺園舎

TEL:075-641-8280 FAX:075-642-8588

メールアドレス: mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

モンテッソーリ教育との出会い

亀田平和の園保育園 板東 光子

1 初めての出会い

従兄の奥さんが「善福寺子供の家」の松本尚子さんと知り合いだったことより、自宅から徒歩で行ける子供の家庭訪問。子どものための環境のすばらしさに驚嘆。教員養成コースが開かれるのを知りまだ資格はないにもかかわらず受け付けてもらいました。試験では赤羽先生が「あなたほどのようにしてM教育を実践するつもりですか」と聞かれたのを今でも覚えています。当時はまだ試験がうかるかわからないのに…と思いましたが今にして思うと、赤羽先生は日本の幼児教育の現状を何とか変えたいとの熱い思いをお持ちだったのだと思います。

2 コースでの学び

当時は教具を持っている人が誰もいませんでしたから、上智大学の一部屋をお借りして学生同士あれやこれやと学びあいました。「構成三角形の部品足りないのでは？」などなど。

3 京都・大阪・山梨・新潟での実践

私の移動は夫の転勤に伴いましたが、日本全国どこに行っても幼稚園・保育園はあり助かりました。最後に新潟の「亀田平和の園保育園」にたどり着きました。コースでモンテッソーリ教育を伝えるためには子供との触れ合いなしにはできませんので、当時の園長であったシスター大橋にお願いして午前中だけ保育園に通っていました。その後「パートから園長になった人も珍しい」と言われますが園長として今日に至っています。

4 亀田平和の園保育園での実践

初めの一年間ぐらいいは静かにしていたつもりですが、十二月には各担任に部屋の環境をどうするか棚等の縮尺図を描いて提出してもらい、みんなで其れに基づいて棚や机の配置等について検討しました。(私は何回も引越しの経験があり、その都度家具をどこに配置するかは荷物が届くときにはすでに決まっています)

た。どんな体験も役立ちますね。) ちなみに二十年たっても保育室の環境はその時の配置にしています。

5 子供が主体って、何?

“子どもが一人でできるように助ける” ということなのか? 今まで普通にしていたことも、少しずつ職員の中で気づきがありました。例えば聖劇の役決め。モンテッソーリの言葉の中に“選択には知識が先行していなければならぬ”とすると、役を決める前に子供たちは“博士って、どんな役? セリフは長い?” とか“マリア様って、どんな役?” と知ってなくてはその本場の選びにはならない。そう気づいた職員は「初めにどの役を何回してもいいよ」から聖劇の練習を始めています。またモンテッソーリ教育では「先生は子供より偉くない」を実践するように話し合いの時間を沢山設けています。

午前中いっぱい、子供が一人ひとり自分を創る時間として大切にしています。先生たちはこの子はどんな手つきでしているのか、実にしっかりと子供を観察しています。そして実にゆっくりとその子に分かるようにいろいろなることを紹介しています。

6 子供の心の成長に出会って

先生たちに恵まれたことが一番大きいのですが、この二十・三十年の間に子供たちの成長を感じます。

その1 発達障害のある三歳児が部屋の靴をなかなか履けなくて困っているのを見た五歳児は、自分の履いた靴をもう一度脱いで“こうしてはけばよいよ”と言葉で言うのでなくやって見せました。

その2 午後のおやつの時です。ある三歳児がお茶を注ごうとするのですがピッチャーにもうお茶がありません。誰かが自分の困っていることを察してくれないかなーとしていると五歳の女の子が少し離れたところから「そういう時には誰かついでとか口で言わないとわからないよ」と、いつもだったらすぐにもついで上げるところをもう本人が自分ですべきと判断したのでしょうか、そんな風景に出会いました。

その3 お料理活動で人参ケーキを作って年長さんが六等分に分けた後、年中の二人に向けて「三歳児さんが先にとつてもいい」と聞いた後、三歳児さん三人に

じゃんけんをさせてとる順番を決めた後、「私は最後でいいからあなたたち(年中児)じゃんけんして」とリードしていました。数年前ですと年長さんがまず自分のを確保する風景でしたのに。縦割りの中で子供たちはいつの間にか育っていくのだなーとうれしく思いました。

一九七一年にモンテッソーリ教員養成コースを出て今だに子供との触れ合いを続けている仲間と「モンテッソーリ教育というのは本当に間違っていないね」と電話で長々とおしゃべりすることがあるのですが、今の子供たちの置かれている状況は以前に比べて決して良くなっているとは言えないのではないかと思います。いろいろな事態になってもしっかりと自分の頭で考える力のある先生になってもらうためにも、モンテッソーリ教師養成コースに通ってもらうことは大切だと思っています。新潟から京都までは五時間以上かかりますが新しく職員になった先生たちには、必ずコースに入学して学んでもらう覚悟です。

第五十回 専門コース
卒業式
二〇二四年三月九日(土)



三月九日(土)午後三時三十分より、四十五名の卒業式が行われました。おごそかな線上歩行の曲が会場に流れ、卒業生の皆様は、井俣先生から自分のローソクに灯をいただきました。ローソクの炎を見つめながら、深草こどもの家で学んだ出来事が思い出され、言葉にならないほどの大きな喜びやしみじみとした感動の気持ちなど、深く心に響いたことでしょう。

この灯りを心にしつかり灯し、それぞれの場所で新たな歩みがなされますように。

祝賀会

卒業式終了後、祝賀会を開催してくださいました。卒業生の山永さんの娘さんが結成するフルフィルさんによるクラリネットと打楽器、ピアノの華やかな演奏で始まり盛り上がりしました。

そして、皆さんが持ち寄ってくださった各地域の銘菓、お寿司、サンドイッチ等を食べながら会話がはずみ、楽しいひと時を過ごすことができました。その中で、「先生、卒業してからでも、学びに来ていいですか?」とおっしゃる方が多く、とてもうれしくて「もちろん、どうぞいらしてください。」と即答しました。卒業生の皆様の熱心さには、本当に感心するばかりです。

また、最後にはお花をいただき、ありがとうございました。

渡辺 政美

◎九州地方

前山秀美(葦ヶ丘/保) 黒木彩音(春日/保)
辻聖那(かいぜ/保) 大内由夏(マリア/幼)

◎中国・四国地方

陽田典子(ウエリナ/保) 北本絵里(丸亀聖母/幼) 秋山朱偉・佐々木智子(愛光/幼) 貝崎玲奈・田ノ窪楓華(若葉/幼) 古賀希美(天使/幼) 山崎紫織・亀岡詩歩・長谷川彩羽(道後聖母/幼)

◎近畿地方

齋藤嬉笑・安田芽生(高田カトリック/幼) 安齋優紀(BASEとまかなFlow上牧) 中田くるみ(宮津暁星/幼) 河島みずき(春日荘聖マリア/幼) 田中瑞恵(聖光/幼) 芦田伊都子(帝塚山/幼) 中島千尋(こひつじ/保) 江村朱里(章津カトリック/幼) 丁野真美(小谷/こ) 加納美沙(賢明学院/幼) 榎本蒼(聖パウロ/こ) 菊山陽香・十河三奈子(精華聖マリア/幼) 岩田尚子(奈良カトリック/幼) 山永幹子(UriOVOこどもの森) 花房由紀子(ラインネットグロトバルスクール) 森舞(西念寺/保)

◎北陸・中部地方

宮澤薫(みずほ/こ) 清水真穂・田中千絵(大八/保) 笠井菜々実(江名子/保) 西愛弥・諏訪有香里(本母/保) 平野真美(中田/保) 宮本莉帆(まつぶん/こ) 中田真梨子

◎関東地方

高久琴音・今井美里・中川美玖(善行森の幼稚園)
梶山織音(みたけ/幼)

(以上四十五名)

卒業生のことば

道後聖母幼稚園（愛媛）

亀岡 詩歩

暖かい春の日差しを感じる頃となりました。

本日、私たちの卒業式を迎えられたこと、心より感謝申し上げます。このような場を設けていただき、また、私たちの成長を見守り、導いてくださった、京都モンテッソーリ教師養成コースの講師の方々に、深く感謝の意を表します。

卒業生のみなさん本日はおめでとうございます。私もみなさんと共に卒業できることを嬉しく思います。

私は、京都コースの一年生の時が、幼稚園教諭としても一年目だったので、何もかも分からない状況で、たくさんの不安がありました。毎回の授業も、初めは、ノートの取り方さえ分からず、仕事をしながら勉強を続けていく自信がなかったのが本心でした。しかし、京都コースで出会った他の園の先生方や、同僚と共に励まし合いながら乗り越えることができました。こうして新しい出会いがある中で、先生方の保育観やそれぞれの園のモンテッソーリ教育の現状を共有することができ、とても良い機会

だったと思っております。正直、一年生の間は、授業についていくのに必死でしたが、二年生に進級してからモンテッソーリの考え方について少しずつ自分の中で解釈できるようになってきて、自分自身の保育の考え方も変わってきた点はたくさんあったので、授業で学んだことを自園に持ち帰って実践するようにしていました。私は満三歳児を担当しており、特に生活面に重きを置いて、椅子の出し入れや戸の開閉、衣服の着脱、人との関わり方などを丁寧伝えるようにしています。先生が丁寧に見えることから始め、徐々に一緒に取り組み、繰り返し伝えることで一人でできるようになる子どももたくさん見えました。中にはやりたくない、できないと言う子どももいましたが、何度も繰り返し先生と一緒にすることで一人でできるようになっている姿も見えたので、じっくりと待つ姿勢で関わるべきなのだ、子どもから学びました。

京都コースで他の園に実習も行かせていただき、客観的に保育について見つめ直すことができました。子どもの姿、環境、先生方の関わり方等、自園とは異なる点がたくさんありましたが、一番印象的だったのは、先生が主導権を持たず、子どもを主体として、子ども自身が考えられるような言葉かけを

されていたことでした。訂正や否定的な言葉で子どもに教え込むのではなく、自分で気づき、考え、行動できるような言葉掛けをすることが大切なのだと、考え方を改めることができました。また、子どもの周りの環境を整えることがモンテッソーリ教師として重要な役割であることも学びました。私自身、現場でも興味を惹かれるような教具を、魅力的に、そしていつも同じように秩序ある環境設定を行い、本物に出会わせる経験をたくさんすること、また、十分な教材を準備しておくことを心がけています。コースで学んだことを実践してみるとそう上手くはいかないこともたくさんあり、再び悩んでという繰り返しですが、保育に正解はないと思うので、これからも日々悩み続けながら子どもと関わっていききたいです。

あつという間の二年間でしたが、お互いに高め合える仲間と出会い、共に乗り越えられたことが本当に幸せでした。これまでも学んできたことを自らの糧として、これからも子どもから学びながら精進していきます。本当にありがとうございます。

大八保育園（岐阜）

清水 真穂

私が京都モンテッソーリ教師養成コースに入学した理由は、保育園でモンテッソー

り教育を取り入れており、先輩の先生方が子ども達に教具を紹介するところを見て、ることしかできなかったり、「モンテッソーリ教育として」と職員会議で話している内容が十分に理解できなかったりすることも、どこかしさを感じたからです。そこで、職場の先輩方がモンテッソーリ教育を学ぶきっかけを与えてくださり、入学しました。片道四時間バスに揺られて、今からどんな学びができるのかワクワクして京都に向かったことをまるでついこの前のことのように感じます。

さっそく授業で学んだことを実践しようと子どもを教具に誘ってみました。「習った通りにしなければならぬ」という気持ちが強くなり、しばらくの間、なかなか思うように紹介することができませんでした。しかし、見学実習や参加実習を通して、子ども達がわくわくし、先生たちとの関わりを楽しみながら教具を行っている姿を見て「子ども達に合わせる」というコースの先生方がおっしゃっていた意味が分かりました。それから、子ども達の興味や関心を大切にしながら、その子に合った教具、方法で紹介することを意識するようになりました。子どもから「もう一回やりたい」「これがやってみたい」と言ってもらえた時はとても嬉しかったです。また、何度も練習する

うちにその教具のもつ意味、素晴らしさを実感することができ、子どもが発見した時の目の輝きや、集中している時の真剣な表情を見ることができたときは、私自身も満たされた気持ちになりました。

教具だけでなく、モンテッソーリ教育の大切にしていることや、先生方の実体験を交えたお話を聞かせていただきました。とても興味深いことばかりで、モンテッソーリ教育の素晴らしさにどんどん引き付けられていきました。以前は、子どもに伝えたいことが上手く伝わらず「どうして伝わらないんだろう」「どうして分かってくれないんだろう」と思ってしまう時もありましたが、子ども達は自分で育っていくことや、教師としての姿などを学び、自分主体で考えてしまっていたことを後悔しました。また、参加実習では、三学期に分かれて先生方と子ども達の関わりや、子ども達が自分たちで行事を作り上げていく姿、お料理活動など、様々な様子を見せていただきました。全てにおいて、子ども達にとって一番いい方法と環境が用意されており、教師は子ども達の行動や考えを認め、遮ることなく丁寧に関わってみえました。その姿に子どもたちを一人の人間として大切にしているという印象を受けました。

この二年間、保育をしながら勉強をする

ことに大変さを感じることもありましたが、それ以上に子ども達と関わりながら学び、一緒に勉強している多くの仲間と発見や喜びを共有できたことが楽しかったです。それと同時に、二年間ではまだまだ学びきれない程の奥深さを感じました。今日が終わりではなく、今日からが新しい自分の始まりだと思つて、今後も「子ども達にとって一番いいものは何か」と考えながら保育を行っていききたいです。また、先生方には授業だけでなく、実習先でも丁寧な様々なことを教えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。二年間、本当にありがとうございました。

聖光幼稚園（京都）

田中 瑞恵

二年前の春、新しいことにチャレンジする楽しみと不安な気持ちを胸に抱きながら、京都モンテッソーリ教師養成コースの門をくぐりました。前園舎で、先生方、生徒の皆さんと出会い、緊張しながらオリエンテーションをしていただくことが昨日のように思い出されます。

私がモンテッソーリ教育を学ぶきっかけとなったのは、石川県金沢市にある聖ヨハネこども園で、キャリアアップを図るために研鑽を積む中で、モンテッソーリ教育の

児童観に興味を持つようになりました。同じころに園長から、系列の幼稚園に出向し、モンテッソーリ教育を学んで、三年後に金沢の現場で取り入れていきたいという保育方針を相談されたことにあります。金沢から京都へ通って学ぶのではなく、移り住んで学ぶということで、深く悩みましたが、学べるのは今しかないと決心し、新しいことにチャレンジすることを決めました。

自己紹介をしたあの日から、共に学び、わからない、身につかないことに焦り、落ち込むことも多くありましたが、悩みや難しさ、わからないことを仲間と伝え合って乗り越え、励まし支え合いながら、みんなが今日のよき日を迎えることができたことをとてもうれしく思っております。

これまで先生方には、丁寧の一つひとつの紹介を教えてくださいました。なかなか覚えられない行程を、繰り返し教えていただき、一つひとつの行程に興味があることや、何度も練習を重ねて身につけていくことの大切さを学びました。また、モンテッソーリ教育で、改めて教師として大切にしていることを学びました。ひとつは、キリスト教精神にもある「仕えること」。謙虚な気持ちで、子どもより上に立つことなくかわるが、子どもにも自由を与え、信頼される人になり、心を通わせることができ

るということ。もうひとつは、「教えながら教える」。間違いを訂正せずに、教えながら、どこに難しさを感じているか、子どもをよく観察して一人ひとりにあった教え方ができる教師であること。実習園では、私が目指す教師を実践しているすばらしい先生方との出会いもありました。子ども一人ひとりをしっかりと観察し、子どもの意思を尊重しながら、やさしい笑顔と言葉でかかわることが、子どもが安心して心を開いていることが見えていただけでも感じられました。私も先生方を目指して、新しい教師になれるよう努めていきたいと思えます。

私はこの二年間で、大きな学びと経験、そしてすばらしい先生方と心強い仲間と出会うことができました。思い切って「京都モンテッソーリ教師養成コースにきてよかつた」と今、振り返って思います。そしてこの二年間は、私の人生の中の大きな宝物になりました。

また、アルバムでは、私だけでなく、一人ひとりのたくさんのアルバムを丁寧に見ていただき、心のこもった付箋とご教授をたくさんいただきましたことに感謝しております。このアルバムは、これからも大切にして、さらに学びを深めていきたいと思えます。



「こどもの家」集団便り

(京都コースで研究開発された教材の販売部)

ご注文はFAXでお願いします。
FAX 075-645-4181

こどもの家集団は子どもにそなわっている「自立する心」を大切にす

モンテッソーリ教育の理念にそって開発された教具教材を販売しています。

- ・「あいうえおの歌」 作曲：篠原眞
正しい発音の日本語の基本を美しいメロディで歌います。
- ・「月・日・曜日の歌」 作曲：篠原眞
身近な日本語の1月～12月、1日～31日、月曜日～日曜日までを覚えやすいメロディで繰り返し歌います。
- ・「線上歩行のためにI,II,III」 作曲：篠原眞
心と身体のコントロールのために行う線上歩行のために作られた曲。
*こどもの足並みを揃えるためではなく背景として役立ちます。
*海外でも高く評価されている曲です。



左記の曲が収録されたCD
2,800円(税抜き)

注文先・発送部：〒612-0838 京都市伏見区深草神明講谷町2-4 商品開発・研究部：京都モンテッソーリ教師養成コース

訃報

作曲家篠原眞さんを偲んで

偉大な作曲家、篠原眞氏が三月三日天に召されました。享年九二歳。東京藝術大学作曲科を経て、一九五四年よりフランス政府給費生として、パリ国立高等音楽院に留学。フランスでオリビエ・メシアンに、ドイツではカールハインツ・シュトックハウゼンと、現代音楽の巨匠にそれぞれ師事。長年オランダに在住し、電子音楽を含む広範囲の創作活動を行いました。欧米で活躍し日本を代表する海外で最も知られた作曲家のひとつでした。アカデミー・シャルル・クロ大賞（フランス）、文化庁芸術祭賞他を受賞。

留学中のドイツケルンで赤羽恵子に出逢い、一九七三年に結婚。京都モンテッソーリ教師養成コースでは赤羽恵子の願いで、「線上歩行のためにⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、二〇〇〇年に「月・日・曜日の歌」、「あいうえおの歌」を作曲してくださいました。

昨年から体調を崩し入院していましたが、最後まで次の作品の構想をお見舞いに訪れる数々のお仲間と語っていたと聞きました。入院していた病院には親交のあった大学教授や藝大卒の後輩作曲家の方などがこまめにいらしてくださいました。その方々のお話によると、篠原眞さんの作曲は基本的に忠実ながら、次の音は予想を超えてくるようで、それが天才的で完璧、唸ってしまうほどの作曲の天才だったとのことです。

「線上歩行のためにⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は海外のモンテッソーリ教師たちにも高く評価されました。『モンテッソーリの発見』ロズ・スタンディング著には「この平衡運動（線上歩行）の最中に、先生や助手（あるいはレコード）がテンポのゆるい静かな曲を、こどもの足並みをそろえさせるためではなく、運動の背景として役立つように演奏します。」とありますが、まさに静粛をいざない線上歩行の際の背景を演出してくれるこの美しい曲は、子どもたちの内面に働きかけます。

「月・日・曜日の歌」と「あいうえお

の歌」は、美しい日本語のためにと副題がついており、難しい日本語の数え方や文字の清音、濁音、拗音などを学び易くする曲であり、かつ表情筋をしつかりと使って歌うので、発音の練習になります。深草こどもの家では年長児と教師、保護者有志の方々と毎年三部合唱で歌っています。篠原眞作曲のモンテッソーリ教育のための音楽をまだ聞いたことのない方は、ぜひ一度お聞き下さい。

残して下さった大切な曲をこれからも大切にしていきたいと思います。

長谷川美枝子



京都コース・深草こどもの家

学校法人化プロジェクト

進捗状況のお知らせ

京都コース卒業生の方々、関係園の先生方にはこの大きなプロジェクトを応援、お支えいただいていることに心より感謝申し上げます。学校法人化プロジェクトの進捗状況をお知らせいたします。

1、寄付募集期間を延長しました。

公益財団法人 京都地域創造基金にて募っております学校法人化プロジェクトへの寄付募集期間を二〇二六年三月末日まで延長します。

<https://www.plus-social.jp/project.cgi?pid=112>



二〇二四年四月三十日現在までの寄付総額は、53,523,473円となりました。（京都地域創造基金への寄付と直接ご寄付の総額）皆様からのご支援に心より感謝申し上げます。

2、新たなプロジェクトメンバーとプロジェクトの展望 — モンテッソーリ小学校設立を視野に

杉山史哲さん（四一）が学校法人化プロジェクトの事務局長として携わってくださることにになりました。杉山さんは、現在は奈良県の生駒市教育委員会事務局（教育政策室）に所属し、市内の小中学校の授業改善に向けた研修制度の企画や、学校の統廃合に伴う新校舎の建築計画の策定等に従事されています。教師主導の一斉授業から子ども中心の教育へ変えていく、という目標を持った情熱のある方です。十五年前、学生の頃に深草こどもの家を五日間見学。赤羽先生とのお話、園の環境、こどもたちの様子に大変感銘を受けたと話し、昨年十一月にご自身のお子さんを連れて来園された際久しぶりに再会し、このようなご縁をいただきました。深草こどもの家という教育環境が公の施設になり、さらに広く全国の幼稚園・こども園・保育園で働く保育士・教諭のための学び舎となり全国の教育施設がより良い環境になることに貢献できるように。そして学校法人化プロジェクトをモンテッソーリ小学校設立までを目指すことに大変意義があると背中を押してください、これまで遠く大きく夢に見ていたモン

テッソーリ小学校実現までを目標に定めます。まずは幼稚園設立、その後に小学校設立を目指して、プロジェクトを進めてまいります。今後は幼児に携わる方々ためのモンテッソーリ教育勉強会に加え、小学校教諭のためのモンテッソーリ教育勉強会なども開催していく予定です。

3、認可幼稚園建設地について

擁壁を造る計画はとても大掛かりなものになってしまったため、平らな土地の購入も含め京都府文教科に相談しました。文教科の回答は「向ヶ原町一七番地もしくは隣接する土地のみ認める」とのことでした。地主さんの承諾を得て隣接する平らな土地購入のための交渉を一年間続けましたが現在土地を利用されている方との交渉は大変困難である為、計画を元に戻し、幼稚園舎建設地は、もともと深草園舎があった場所、京都市伏見区向ヶ原町十七番地になりましたことご報告いたします。これまでの周囲を擁壁で囲む計画は建設費が大変高くなるため、崖部分を安定勾配にする予定で進めてまいります。モンテッソーリこどもの家の環境と教師養成コース会場としてふさわしい園舎を建築する計画を進めてまいります。



新緑の季節となり

ました。わかば会の皆様も子どもたちと充実した日々をお過ごしのことと存じます。三月にコースの卒業式に参列させて頂きました。記念すべき五十期は四十五

名の卒業生がおられ、皆様、わかば会入会の手続きをしてくださり、新しい仲間が増えました。心よりお祝い申し上げます。式は渡辺先生のご進行、井俣先生がディプロマを手渡される姿を拝見し、コースの新たな空気が感じられました。しかしながら、コースの先生方の教えは変わらず、子どもたちの良き援助者となるよう、私たちも学び、心新たに歩んでいこうと思いました。

今年も夏期講習会が行われると伺いました。また、皆様にお目にかかれることを楽しみにいたしております。夏期講習会で会費の徴収を行います。ご参加されない方は下記へ振り込みをお願いいたします。なお、お預かりした会費は、夏

期講習会の補助や、“コースからの手紙”、“自由を子どもに”が発行される際の補助に使わせていただいております。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

わかば会 会長

聖母幼稚園園長 井上美幸

2024年度の会費の納入のご協力をお願いいたします。
【会費納入について】

◎振込先

02 東京 00150-9-82053
京都モンテッソーリ教師養成コースわかば会

◎年会費

1,500円
※長期滞納の方は再入会金 1,000円と
2024年、2025年の2年分 3,000円
計4,000円をご送金ください。

◎問い合わせ先

わかば会 井上美幸 (聖母幼稚園)
〒520-0802 滋賀県大津市馬場2丁目6-62
TEL (077)523-0480 / FAX (077)548-8870
Eメール: seibo-nike@dune.ocn.ne.jp



京都モンテッソーリ教師養成コース 基礎コース 札幌会場 受付中

<養成期間> 2年間 <申込み先> 京都モンテッソーリ教師養成コース事務局

日程 (2024年)	第Ⅰ課程	第Ⅱ課程
8月3日・4日	生活教育Ⅰ	言語教育Ⅱ
8月5日・6日	言語教育Ⅰ	生活教育Ⅱ
8月7日・8日	感覚教育Ⅰ	数 教育Ⅱ
8月9日・10日	数 教育Ⅰ	感覚教育Ⅱ

8月、快適な札幌で学びましょう。
お申込み、お待ちしております。
願書受付 6月30日まで

*第Ⅱ課程は、第Ⅰ課程終了者対象です。

*日本モンテッソーリ協会 全国大会との関係上の都合で、以前にお知らせしていた日程から、上記の内容が変わっています。※感覚と言語が入れ替わっています。ご確認のうえ、受講していただきますようお願いいたします。

2024年度 京都モンテッソーリ教師養成コース主催 モンテッソーリ教育講習会

自由を子どもに・・・

大会テーマ「すべての子どもが 共に学び 育ちあう」

日時：2024年7月27日（土）／28日（日） 場所：京都ガーデンパレス

7月27日（土） 全体会 13:00～17:00 受付開始 12:30～

時間	内容	講師（敬称略）
13:00～	オリエンテーション	
13:10～14:40	基調講演 「発達障害の子ども達と生きる力」	佐々木信一郎 日本モンテッソーリ協会(学会)会長 社会福祉法人聖母愛真会理事長 こじか保育園園長
14:40～14:55	休憩	
14:55～15:25	リフレッシュコンサート	琴：福原左和子 フルート：大嶋義実
15:25～16:55	実践園発表 「発達に課題のある子ども達への取り組み」	徳田和子 峡南幼稚園副園長
17:00～17:30	わかば会（京都コース卒業生の会）総会	

7月28日（日） コース別研修 9:30～16:00 受付開始 9:00～

時間	A		B
9:30～11:00	特別講演：田爪宏二 京都教育大学 教育学部 教授 「非認知能力を育む保育・教育」 ～発達心理学の視点から～		ワークショップ 子どもの育ちを助ける 言語教育 「自分の言葉で表現できるように」 ～話し言葉から書き言葉へ～ 講師：海道洋子、根岸美奈子
11:00～11:15	休憩		
11:15～12:00	特別講演を聴いてのグループ討議 進行：井俣直子		
12:00～13:30	昼食・休憩		
	C	D	E
13:30～15:00	コスミック教育① 「身近な生き物との関わり」 峡南幼稚園 徳田諭	管理者の集い 「新人教育・行事について」 実践園の事例と話し合い 対象者：園長・主任等 コーディネーター 板東光子	ワークショップ 子どもの育ちを助ける 感覚教育 「『混沌』から『知性』への橋渡し」 ～一人ひとりの歩みに寄り添って～ 講師：井俣直子
15:00～15:15	F	G	
15:15～16:00	コスミック教育② 「豊かな自然の中で育ち合う子ども」 まつぶんこども園 園里香、渡辺政美	実践報告 0、1、2歳児の保育 藤原幼児園	

*今年度から、インターネットでのお申込みとなります。こちらからお申込みください ➡

